怪話篇 第十話 雪国

K1.M-Waki

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
怪話篇　第十話　雪国

【Ｎコード】
Ｎ７６２７Ｔ

【作者名】
Ｋ１．Ｍ－Ｗａｋｉ

【あらすじ】
雪国の何のへんてつもない日常。と、思えたそれは実は…

怪話篇　第十話　雪国

1

「何を見てるんですか？」
「えっ。ああ、雪。雪ですよ。」
「毎日よく降りますねえ。」
「そうですね。でも・・・・・」
「でも・・・・、何ですか？」
「雪はこうやって、絶えず降り積るってゆうのに、・・・・私達のやった事といったら。」
「感傷的ですね。」
「そうでしょうか。・・・・そうなのかも知れませんね。」
「取敢えずは、ココは安全地帯ですから。」
「安全地帯？地球に安全な処なんてあるんでしょうか。」
「まあ、そうですけど・・・・。ココには天使は、入り込んでませんし。」
「代わりに雪が降り続くだけ。」
「・・・・ですね。」

2

「よく降りますねえ。」
「全く。ここ2～3年で、極端に降るようになりましたねえ。」
「それに、色が・・・・」
「そうなんですよ。・・・・こんな色をした雪なんてねえ。」
「観測センターの見解じゃ、やっぱり汚染の所為だそうですよ。」
「やっぱりそうでしょうね。海だけじゃなく、大気も土地も汚染されつ尽くしているんでしょうね。」

「ココにこうやって私達が生きている事だけでも、奇跡に近いんですから・・・・」
「この雪が降らなくなった時が、・・・・」
「そう、その時が・・・・。・・・・やってこないように祈りましょうよ。」

3

「今年の雪は、とても少ない様ですが。」
「その様ですね。」
「もう限界が、近いんじゃないですか？」
「そうかも知れません。」
「でも、・・・・観測センターの予測では、もう少し先の事ではなかったでしょうか？」
「新聞には、確かにそんな風に表示してありましたが・・・・」
「あれは、あてになりませんから。」
「政治的配慮もあるでしょうね。」
「多分。」
「この都市を司る、市長がもう駄目だなんて言っていたら、本当にもう駄目になってしまいますよ。」
「どのみち、このドームも、外の汚染に耐えられなくなって来てますから。」
「ドームを閉じて、１５０年ですか。」
「当初の予測では、３００～４００年は耐つとの事でしたが。」
「まあ、理論値ですから・・・・。実際とは違いますよ。」
「まあ、人類は、と言うよりも、地球はもう終わりでしょうね。」
「核戦争後に、ミュータントが生き残る様なＳＦ小説がありましたが、・・・・嘘でしたね。」
「まあ、起こってみないと、現実は判らん物ですから。」
「水圧がここまでドームに疲労を与えるなんて事は、作った当時は計算外だったんですしねえ。」

「沢山降っていた、雪さえ降らなくなるなんて。もう海には、プランクトンさえも住めないんですよ。」
「『マリン・スノー』が降り止むのと、この海底ドームが壊れるのと、はたしてどちらが先か・・・・」

ｅｏｆ．

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7627t/

怪話篇 第十話 雪国

2011年10月9日03時54分発行